

2018年6月10～11日

6・10国会前行動、新潟知事選挙、G7

政権打倒、国会前で市民が氣勢 「みんなの力で変えよう」
共同通信 2018/6/10 18:19



国会前で行われた安倍政権に抗議する市民集会＝10 日午後

安倍政権に反対する市民団体が 10 日、国会前で抗議集会を開き、森友、加計学園問題や「高度プロフェッショナル制度」などを引き合いに政権打倒を訴えた。主催者発表で約 2 万 7 千人が参加し「みんなの力で政治を変えよう」と氣勢を上げた。

この日はあいにくの雨だったが、参加者は傘や雨具でしのぎながら「森友疑惑徹底追及」「加計疑惑も徹底追及」などと声を合わせていた。

ルポライターの鎌田慧さんは「日本の議会制民主主義は破壊されてしまった」と強調。「安倍政権打倒のために一日一日頑張っていかなければならない」と呼び掛けた。

国会議事堂前 「安倍政権は退陣を」集会に2万7000人

毎日新聞 2018年6月10日 17時51分(最終更新 6月10日 19時18分)

森友学園を巡る公文書改ざん問題などの審議が続く東京・永田町の国会議事堂前で10日、安倍政権に退陣を求める集会が開かれた。強い雨の中、約2万7000人（主

催者発表）が集まり、声を上げた。



国会前で安倍政権の退陣などを要求し、声を上げる人たち＝東京都千代田区で2018年6月10日午後2時32分、竹内紀臣撮影

集会は20以上の市民団体で作る実行委員会の主催。野党の国会議員や市民団体関係者が演説し「森友問題も解決できない政権に、大きな問題を任せられるのか」などと批判した。

参加者らは「まともな政治を」「安倍内閣は退陣を」などと書かれたプラカードを掲げ「森友疑惑の徹底追及を」などと唱和した。

横浜市青葉区から来た自営業、井浦徹さん（67）は「首相夫妻の対応に非常に疑問で、いてもたってもおられずに来た」、大阪市城東区の元看護師、森厚子さん（62）は「安倍（晋三）首相は平然とうそをついているように見える。国会前で疑問をぶつけるべきだと思って駆け付けた」と話していた。【大迫麻記子】

「森友 加計 疑惑の徹底解明を」国会前でデモ
NHK6月10日 18時32分



森友学園をめぐる財務省の決裁文書の改ざんや、加計学園の獣医学部新設をめぐる問題などに抗議するデモが国会議事堂前で行われました。

10 日午後 2 時から国会議事堂の前で行われたデモ活動には、雨の中、大勢の人たちが参加しました。

参加した人たちは、森友学園をめぐる財務省の決裁文書の改ざんや加計学園の獣医学部新設をめぐる問題などについて、「官僚に責任を押しつけるな」「森友・加計疑惑の徹底

解明を」などと書かれたメッセージを掲げて真相解明を訴えました。

また今の国会で審議が続く、高収入の一部専門職を労働時間の規制から外す制度についても、反対の声を上げていました。

参加した 63 歳の女性は「森友問題、加計問題での安倍政権の説明には国民の多くが納得していない。政権にはもっと国民の声を聞いてもらい、正直であってほしい」と話していました。

大阪から参加したという 67 歳の男性は「雨の中だったが熱気を感じた。一部の官僚に責任を押しつけるやり方には怒りを感じる。これを機に今の政治を変えなければいけない」と話していました。

与党系の花角氏初当選＝野党推薦候補と激戦制す＝新潟知事選



新潟県知事選で勝利し、万歳する花角英世氏＝10日夜、新潟市中央区

米山隆一前知事の辞職に伴う新潟県知事選は10日投開票され、無所属新人で前海上保安庁次長の花角英世氏（60）＝自民、公明支持＝が、前県議の池田千賀子氏（57）＝立憲民主、国民民主、共産、自由、社民推薦＝と元県五泉市議の安中聡氏（40）の無所属新人2人を破り、初当選した。今回の知事選は事実上の与野党対決。与党が支援した花角氏の勝利は、今秋の党総裁選と来年の統一地方選、参院選に向けた安倍晋三首相の政権運営にプラスとなりそうだ。



新潟県知事選で敗北し、厳しい表情の池田千賀子氏＝10

日夜、新潟市中央区

一方、森友・加計学園問題で首相を追及してきた野党側にとって、「野党統一候補」として支援した池田氏の落選は痛手となった。統一地方選と参院選を控え共闘戦略にも影響を与えるとみられる。投票率は58.25%で前回（53.05%）を上回った。

知事選は、東京電力柏崎刈羽原発（同県柏崎市、刈羽村）の再稼働問題や、米山氏の任期途中での辞職による県政の信頼回復などが争点となった。花角氏は、原発再稼働については是非を判断した後、出直し選も視野に県民の信を問う考えを示したほか、観光振興や交通インフラの整備などをアピール。自民、公明両党の支援を受けながら「県民党」を掲げて政党色を前面に出さない戦略で選挙戦を進め、支持を広げた。

池田氏は、原発再稼働の是非を問う県民投票の実施などを主張するとともに、新潟初の女性知事誕生を呼び掛けた。推薦した野党各党は幹部を投入し、激しい政府・与党批判を展開したが及ばなかった。安中氏は、原発廃止などを強く訴えたが浸透しなかった。

◇新潟県知事選当選者略歴

花角 英世氏（はなすき・ひでよ）東大法卒。82年運輸省（現国土交通省）に入り、観光庁総務課長、新潟県副知事などを経て15年9月海上保安庁次長。60歳。同県出身。当選1回。

◇新潟県知事選確定得票

当	546,670	花角 英世	無新
	509,568	池田千賀子	無新
	45,628	安中 聡	無新

（時事通信 2018/06/10-23:53）

花角氏、県政立て直しが急務＝原発再稼働判断も課題＝新潟知事選

新潟県知事選は自民、公明両党が支持した前海上保安庁次長の花角英世氏（60）が、野党統一候補で前県議の池田千賀子氏（57）らとの激戦を制した。約1カ月半にわたりトップ不在となった県政の立て直しが急務で、将来は東京電力柏崎刈羽原発（同県柏崎市、刈羽村）の再稼働の判断も課題として待ち受ける。

2016年10月に初当選した米山隆一前知事は4月、女性問題により約2年半の任期を残して辞職しており、県政は新しい知事の下で早期の信頼回復が求められている。花角氏は13年から約2年間副知事を務めたほか、出身官庁の国土交通省での行政経験も長く、安定した県政運営を期待する声がある。

原発再稼働をめぐるのは、米山氏が設置した原発事故に関する検証委員会を引き継ぐ意向を表明した。政府はエネルギー基本計画原案で、原発を重要なベースロード電源として位置付けているが、県内の各種世論調査などで再稼働

への反対は依然として根強い。与党の全面支援を受けて当選しただけに、再稼働の是非では県民との間に立って難しい判断を迫られそうだ。（時事通信 2018/06/10-23:33）

激戦制し、与党安堵＝野党は戦略見直しへー新潟知事選

自民、公明両党は激戦となった新潟県知事選を制し、安堵（あんど）している。「政権は国民の信任を得られた」（与党幹部）として、森友・加計学園問題などの幕引きを急ぎ、国会で積み残された法案処理を加速させる構え。安倍晋三首相がにらむ党総裁3選に弾みになるとの見方も出ている。一方、立憲民主党など主要野党は、来年の参院選に向けて戦略の見直しを迫られる。

自民党の二階俊博幹事長は10日、党本部で記者団に「おごることなく政権運営に全力を尽くす」と強調。「（首相にとり）総裁選に良い風が吹いてきたと判断して間違いない」と語った。

選挙戦は、政権に対する審判の場と位置付けられ、与野党がそれぞれ支援する候補の事実上の一騎打ちとなった。

自公両党は敗北すれば首相の政権運営に影響しかねないとして、支援候補が運輸相秘書官として仕えたことがある二階氏ら幹部クラスを現地に投入。政党色を薄め、企業・団体などの組織固めを中心に国政選挙並みの態勢で臨んだ。

勝利を受け、首相サイドは低迷する内閣支持率の反転に期待を寄せる。ただ、選挙結果は小差で、強引に国会運営を進めれば、世論の反発を招く可能性がある。総裁選に向けては、一連の疑惑を払拭（ふっしょく）しきれていないことなど懸念材料も抱え、今後の展開は予断を許さない。

自民党幹部は「状況は変わらない。負けていたら逆風が強くなっただけだ」と指摘。公明党の斉藤鉄夫選対委員長はコメントで「政権が信任されたというものではない」と引き締めを図った。

立憲や国民民主、共産両党など5野党・1会派は幹部が現地でそろい踏みし、総力戦を展開。「安倍政権の体質を問う機会」と訴えたが及ばなかった。今後、共産党を含む野党共闘の在り方などが議論になりそうだ。

立憲の近藤昭一選対委員長は談話で「この国の民主主義を土台から侵害し続ける安倍政権と厳しく対峙（たいじ）し、国政の転換を目指す」と表明した。共産党の志位和夫委員長は「（主要野党が）市民団体とともに心一つに戦ったことは、今後につながる大きな財産をつくった」とする談話を発表した。（時事通信 2018/06/10-23:57）

元気で暮らしやすい新潟に＝初当選の花角氏

「元気で暮らしやすい新潟にすると約束する」。新潟県知事選に初当選した花角英世氏は10日午後10時半ごろ、支援者らの前に姿を現し、力を込めて宣言した。支援者から花束を贈られると、選挙戦で日焼けした頬を紅潮させながら何度も笑顔で頭を下げた。



新潟県知事選で勝利を喜ぶ花角英世氏（右から2人目）の陣営＝10日夜、新潟市中央区

自民、公明両党の支持を受けながら、政党色を薄め「県民党」を掲げて知事選に臨んだ。東京電力柏崎刈羽原発の再稼働については「県独自の検証を続け、結果を踏まえリーダーとして判断を示したい」と慎重な姿勢を強調した。米山隆一前知事の辞職による県政の停滞を挽回するため「すぐにでも県庁に行き、職員から最新の情報を聞き取りたい」と語った。



新潟県知事選の開票速報を見守り、厳しい表情を見せる池田千賀子氏の陣営＝10日夜、新潟市中央区

一方、敗れた池田千賀子氏の陣営は、花角氏当選確実の報道が流れると重苦しい雰囲気になった。池田氏は支援者らを前に厳しい表情で、「私の力不足。花角氏の前発政策をしっかりと注視していきたい」と語り、会場を後にした。

（時事通信 2018/06/11-00:35）

新潟知事に与党系花角氏 野党共闘候補破る

共同通信 2018/6/11 00:35



新潟県知事選で初当選し、万歳する花角英世氏＝10日夜、新潟市中央区

新潟県の米山隆一前知事の辞職に伴う県知事選は10日投開票され、無所属新人の前海上保安庁次長花角英世氏（60）＝自民、公明支持＝が、元県議池田千賀子氏（57）＝立民、国民、共産、自由、社民推薦＝ら無所属2新人を

破り、初当選した。森友、加計学園問題など相次ぐ安倍政権の不祥事に関する影響をかわし野党共闘に勝利した。

与野党ともに知事選を来夏の参院選の前哨戦と位置付けていただに、安倍晋三首相は知事選の結果を追い風に終盤国会を含む政権運営に全力を挙げる構え。9月の自民党総裁選3選や来年の統一地方選に向けても弾みとなりそう

与党、安倍政権信任された みそぎにはならない、野党 共同通信 2018/6/10 23:56

新潟県知事選で10日、与党が支持した前海上保安庁次長花角英世氏が当選したことを受け、与党内には「安倍政権が信任された」（自民党の閣僚経験者）と安堵の声が広がった。5党が共闘した野党側は「中央と地方の政治は全く別だ。安倍政権が『不祥事のみそぎが済んだ』と言うならば、とんでもない」（立憲民主党の長妻昭代表代行）とけん制した。

自民党の二階俊博幹事長は10日夜、党本部で記者団に「際どい差だったが、勝利を収めることができた。油断することなく、今後の政権運営に全力を尽くしたい」と述べた。

新潟知事選、自公系の花角氏が初当選

朝日新聞デジタル 2018年6月11日00時06分



当選を決め、支援者と喜ぶ花角英世

氏（中央）＝2018年6月10日午後10時41分、新潟市中央区、角野貴之撮影



新潟県知事選は10日、投開票され、無所属新顔の前海上保安庁次長、花角英世氏（60）＝自民、公明支持＝が、前県議の池田千賀子氏（57）＝立憲、国民、共産、自由、社民推薦＝ら無所属新顔2氏を破り、初当選を決めた。投票率は58・25％で、前回の53・05％を5・20ポイント上回った。

東京電力柏崎刈羽原発（同県柏崎市、刈羽村）の再稼働

に慎重姿勢だった米山隆一前知事（50）が女性問題で4月に辞職したことを受けた選挙。柏崎刈羽原発6、7号機は昨年12月、原子力規制委員会の主要審査を終え、焦点は地元同意に移っている。

2015年まで県副知事を務めた花角氏は、国土交通省などでの行政経験をアピール。観光振興や交通網の充実を公約の重点に置いた。原発については慎重姿勢を示してきた。再稼働を判断する際には「改めて信を問う」とし、辞職して出直し知事選で民意を問う可能性にも言及した。

森友学園や加計学園の問題などで安倍政権への批判が厳しさを増すなかで行われた選挙。自民、公明両党からの支援は「推薦」よりも弱い「支持」にとどめ、政権や与党とはやや距離をとった。

池田氏は、16年に野党統一候補として初当選した米山前知事の政策を受け継ぐと強調した。「原発ゼロの新潟県」を掲げて米山前知事が進めてきた福島第一原発事故の検証を続けるとし、再稼働に積極姿勢の安倍政権を批判した。選挙戦では、野党の党首級が続々と来県し、支援も呼びかけた。だが、原発に慎重な主張を続けた花角氏との違いを明確に打ち出せず、及ばなかった。

元同県五泉市議の安中聡氏（40）は、利権構造からの脱却や即時廃炉などを訴えていた。

確定得票は、花角氏が5万4千6百70票、池田氏が5万9千5百68票、安中氏が4万5千6百28票だった。

共産・志位氏「5野党1会派の戦い、今後の大きな財産」

朝日新聞デジタル 2018年6月11日00時01分

志位和夫・共産党委員長

一、10日投開票された新潟県知事選挙で、市民と野党が共同で推した池田ちかこ候補は、当選には及ばなかったものの、大健闘の結果となりました。ご支持いただいた県民のみなさん、ご支援いただいたすべてのみなさんに、心からの感謝を申し上げます。

一、柏崎刈羽原発の再稼働問題が最大争点となるもとで、池田ちかこ候補が「福島原発事故の検証結果が出ないもとでの再稼働は認めない」「新潟のことは新潟が決める」ときっぱり公約したことは、論戦をリードし、大きな意義があったと考えます。

5野党・1会派がそろって池田候補の推薦を決め、市民団体のみなさんとともに心ひとつにたたかったことは、今後につながる大きな財産をつくりました。ともにたたかったすべての政党、市民団体、個人の方々に心からの敬意を表します。力をあわせて、池田候補の掲げた公約実現のために奮闘するとともに、新潟でも全国でも市民と野党の共闘をさらに発展させるために全力をあげる決意です。（新潟知事選の結果を受けて発表した談話で）

立憲・近藤氏「今後の新潟の原発政策、引き続き注視を」

朝日新聞デジタル 2018 年 6 月 11 日 00 時 00 分

近藤昭一・立憲民主党選挙対策委員長

新潟県知事選で、立憲民主党をはじめ野党各党が推薦した池田千賀子候補が惜敗した。池田候補は、前知事の突然の辞任を受けての急の出馬であるにもかかわらず、短期間の中で、県内をくまなく走り回り、多くの皆さんに支えられて選挙戦を懸命に戦い抜いた。池田候補を応援していただいた多くの県民の皆さんに、心から感謝を申し上げる。

立憲民主党は、県連組織がまだ立ち上がってはいない状況ではあったが、代表をはじめ各議員が連日新潟に入り、多くの県民の皆さんから熱い応援をいただいた。このことにも、重ねて感謝を申し上げたい。

県民の判断と選択は、選挙結果に示されたが、原発再稼働や原発政策の推進に反対する数多くの県民の意思が表明されており、今後の新潟県政における原発政策について、県民の意思にそった行政が進められるよう引き続き注視していきたい。また森友・加計学園問題にみられる公文書改ざんや虚偽答弁など、国民の不信感を増幅させた安倍政権への批判の声は今回の投票でも示されたと考える。

立憲民主党は、この新潟県知事選の結果をふまえ、新潟における党の体制を確立し、「草の根民主主義」「ポトムアップ政治」の実現をめざして全力をあげていく。また、この国の民主主義を土台から侵害し続ける安倍政権と厳しく対峙（たいじ）し、国政の転換を目指す決意である。（新潟県知事選を受けて発表した談話で）

無会・岡田氏「野党結束で対抗力となり得ると示した」

朝日新聞デジタル 2018 年 6 月 11 日 00 時 00 分

「無所属の会」代表の岡田克也衆院議員

本日投開票が行われた新潟県知事選において、無所属の会をはじめとする野党 6 党・会派が推薦する池田千賀子候補は当選を果たすことができませんでした。

今回の選挙戦を通じて、ご支援、ご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。他方で、安倍政治、自公政権に対する国民の不信、怒りの声を多数いただきながら、その声を結果につなげられなかったことは大変残念です。

ただ、政権与党が全力で組織戦を展開するなか、草の根の選挙で戦った池田候補が接戦となったことは、野党が結束して戦うことで政権与党への大きな対抗力となり得ることを改めて示しました。無所属の会が果たすべき役割は小さくありません。残された終盤国会においても、野党の連携・協力のもと、安倍政権に徹底論戦を挑んで参ります。

（新潟県知事選での野党系候補の敗北を受けて発表したコメントで）

自由・小沢氏「惜敗は残念。暴走続ける安倍政権と闘う」

朝日新聞デジタル 2018 年 6 月 11 日 00 時 02 分



自由党の小沢一郎氏

小沢一郎・自由党代表

自由党が推薦した池田ちかこ氏が惜敗されたことは誠に残念である。

池田氏は「脱原発」という新潟県の「命」と「暮らし」を守る方針を明確にされ、また「新潟のことは新潟で決める」というスローガンの下、いま新潟に必要な政策をわかりやすく徹底的に訴えてこられたが、このような結果になったことについては、自由党としても真摯（しんし）に受け止めたい。

しかし、この国の未来を考えた場合、「脱原発」を含めたその主張は全く正しいものであり、引き続き粘り強く国民に訴えかけていきたい。

また、国家権力を乱用・私物化し、この国の民主主義や行政を破壊しながら、なおも暴走を続けている安倍政権と徹底的に闘って参りたい。（新潟県知事選を受けて発表した談話で）

国民・大島氏「私たちの責任は極めて重い」

朝日新聞デジタル 2018 年 6 月 11 日 00 時 02 分



新潟知事選の結果を受け、記者団の取材

に応じる大島敦氏＝10日夜、東京都内

大島敦・国民民主党選挙対策委員長

非常に残念だというのが率直な感想だ。原発が争点とはおっしゃっていたが、なかなかその争点が（花角、池田の）両候補とも極めて似通ったところがあったので、争点が要は明確にならなかったということが、有権者の投票行動にある程度影響したのかなと推察をし新潟知事選、自公系の花角氏が初当選

与党候補、野党候補とも票差としては大きく開いていないので、一定の現政権に対する批判はあるという認識だ。

（安倍政権をめぐる）疑惑追及についての信任が今回の選挙でされたとは思っていない。今後の疑惑追及については、政府を監視する立場からこれまで通りしっかりと行っていく必要があると考えている。

しっかりと一丸となって取り組んできた選挙であり、私

たちの努力が報われなかったことに対する責任は極めて重
いと考えている。(新潟県知事選の結果を受け、記者団に)

初当選の花角氏「新潟県独自の原発検証作業続ける」

朝日新聞デジタル 2018年6月11日00時42分



花束を受け取り笑顔の花角英世氏

＝2018年6月10日午後10時43分、新潟市中央区、
角野貴之撮影



新潟県知事選で10日、前海上保安庁次長の花角英世氏
(60)＝自民、公明支持＝が初当選を決めた。花角氏の
支持者ら約250人が集まった新潟市中央区のホテルでは
同日午後10時半ごろ、花角氏の当選確実の知らせが届き、
大きな歓声と拍手がわいた。

支持者とともに万歳三唱した花角氏は「途中折れそうな
時もあったが、なんとかゴールできた。暮らしやすく、元
気な新潟県を達成したいと伝えてきた。これに共鳴、理解
いただけたと思う」と喜びを語った。

東京電力柏崎刈羽原発(同県柏崎市、刈羽村)について
は「県独自の検証委員会が動いている。しっかりと検証作
業を続け、結果を踏まえてリーダーとして判断する」との
考えを示した。勝手連の女性も登壇し、「選挙の経験もない
中、一生懸命がんばった。(花角氏に)これから新潟県を託
してがんばってもらいたい」と期待を込めた。

一方、敗れた元県議の池田千賀子氏(57)＝立憲、国
民、共産、自由、社民推薦＝は新潟市中央区のホテルで約
100人の支持者らにあいさつ。「当選できなかったことは
ひとえに私の力不足」。原発再稼働については「多くの県民
のみなさまから不安の声を聞いた。花角氏は『原発ゼロ』
を掲げて戦ってきたので、私も注視したい」。終始笑顔で話
したが、支持者から花束を渡されると目頭を押さえた。

自民・二階氏「もりかけ問題、本当に選挙に邪魔っ気」

朝日新聞デジタル 2018年6月11日00時24分



二階俊博・自民党幹事長

二階俊博・自民党幹事長

(森友、加計学園の問題などの新潟県知事選への影響に
ついて)あのことは我々の選挙にプラスになったわけじゃ
ない。本当に邪魔っ気なことであつたと思われます。関係
の人たちは、大いに反省をしてもらいたい。(与党系候補の
勝利で、党総裁選3選を目指す安倍首相に対して)いい風
が吹いてきたということを、判断して間違いないと思いま
す。(党本部で記者団に)

自民・柴山氏「政権運営に追い風になるのでは」

朝日新聞デジタル 2018年6月11日00時22分



柴山昌彦・自民党総裁特別補佐

柴山昌彦・自民党総裁特別補佐

(新潟知事選で自公系候補が勝利したことについて)地
方選挙であり、これをもって我々の国政、様々な政策課題
が全て是認されたわけではない。ただ、相手候補が「安倍
政権に不信任を」と掲げて選挙戦を戦ったことも事実だ。
与野党対決でそれを退けることができたので、私たちの政
権運営に対し、追い風になるのではないかと。秋の総裁選は
まだどのような状況になるかわからないが、今回の結果は
当然、安倍総裁(首相)にとってプラスに働くのではない
かと思う。(朝日新聞の取材に対して)

花角氏、再稼働反対票も取り込む 新潟知事選、出口分析

朝日新聞デジタル 峰久和哲 2018年6月10日23時11分



笑顔で支援者が集まる

会場へ入る花角英世氏＝2018年6月10日午後10時35分、新潟市中央区、角野貴之撮影



10日投開票された新潟県知事選では、自民、公明の支持を受けた花角英世氏が柏崎刈羽原発の再稼働に反対する人の票を取り込み、当選を決めた。5野党の推薦を受けた池田千賀子氏は無党派層の票を集めたが及ばなかった。

朝日新聞社は同日、県内90投票所で出口調査を実施し、4420人から有効回答を得た。それによると、投票の際に最も重視した政策は①原発への対応（28%）②景気・雇用（25%）③地域の活性化（18%）④医療・福祉（14%）⑤子育て支援（11%）の順だった。

花角氏は「景気・雇用」を選んだ人の70%、「地域の活性化」を選んだ人の63%から得票。

最も多い「原発への対応」を選んだ人は75%が池田氏に投票した。前回の知事選で当選した米山隆一氏が「原発への対応」を選んだ人の84%の票を集めたのに比べると、池田氏は原発問題を当選の決め手とすることができなかった。

再稼働への賛否に絞った質問でも、反対（65%）が賛成（30%）をダブルスコアで上回ったものの、花角氏は「反対」票のうち37%を取り込んでいた。再稼働問題を争点としない花角氏の戦術が功を奏したことを示している。

支持政党別の投票先を見ると、自民支持層の78%、公明支持層の81%が花角氏に投票。池田氏は立憲民主支持層の91%の票を集めたのをはじめ、推薦を受けた5野党の支持層を固め、無党派層も60%が池田氏に投票した。

前回選挙では自民支持層の25%、公明支持層の21%が米山氏に流れていた。今回、池田氏に流れたのは自民支持層の17%、公明支持層の15%にとどまり、混戦を制する大きな決め手になった。（峰久和哲）

与党支持でも再稼働には慎重 花角氏、前知事の方針継承
朝日新聞デジタル高木真也 2018年6月10日23時23分

新潟県知事選で注目されたテーマの一つが、東京電力柏崎刈羽原発の再稼働問題だった。

柏崎刈羽原発は2012年から全7基が停止している。昨年末、原子力規制委員会が6、7号機の新規制基準の適合性審査を終えた。原発が立地する柏崎市、刈羽村が再稼働容認の立場を示す中、県の姿勢が焦点となっている。

米山隆一前知事は、福島第一原発事故の原因、避難計画の実効性、原発事故が被災者の暮らしや体に与える影響の

「三つの検証」を終えるまで、再稼働の判断をしないと明言していた。

自民、公明両党の支持を受けた花角氏だが、前知事の方針を引き継ぎ、2、3年かけて三つの検証を進めると断言。両党も、原発に難色を示す世論が根強い中、原発再稼働の争点化を避ける戦略を取った。

選挙期間中、野党候補が脱原発の姿勢を次第に強めると、花角氏は「検証で安全性が確認されても、県民の納得が得られるまでは（原発を）動かせない」とまで踏み込んだ。ただ、有権者からは「官僚出身の人が政府の意向に反する判断ができるだろうか」という声も聞かれた。

朝日新聞が2、3の両日、知事選の情勢調査とともに実施した県民への世論調査では、柏崎刈羽原発の再稼働に「賛成」が24%、「反対」が60%だった。花角氏は選挙戦で防災や起業支援なども訴えたが、政府の立場と一線を画し、再稼働の可否に向き合えるか。引き続き、県政の重要なテーマとなる。（高木真也）

新潟知事選、国会運営に影響は 与党に追い風と向かい風
朝日新聞デジタル政治部与党キャップ・佐藤徳仁 2018年6月10日23時51分

新潟県知事選は、中央政界からも三つの観点で注目されていた。一つは、来年の参院選や統一地方選挙を占う試金石として。二つ目は、最終盤を迎えた国会運営への影響。そして、東京電力柏崎刈羽原発の再稼働への影響だ。

与野党は今回、国政選挙並みの態勢で臨んだ。特に与党にとっては「勝つか負けるかは、参院選に大きく影響し、政権交代にもつながりかねない」（吉田博美・自民党参院幹事長）と力を注いだ。野党共闘が成立した新潟での与党系候補の勝利は、来夏の参院選のモデルケースともなり、今秋の自民党総裁選で3選を目指す安倍晋三首相にとっての追い風となる。

与党系候補の勝利が国会運営に…

新潟知事選、与党系の花角英世氏が初当選
読売新聞 2018年06月11日00時09分



万歳三唱して喜ぶ花角さん（左から2人目）（10日午後11時12分、新潟市中央区で）

無所属の新人3人が立候補した新潟県知事選は10日、
はなずみ
投開票が行われ、前海上保安庁次長の 花 角 英世氏（60）（自民、公明支持）が、前県議の池田千賀子氏（57）

(立憲民主、国民民主、共産、自由、社民推薦)らを破り、初当選を決めた。

与野党幹部らが連日新潟入りして応援のマイクを握るなど、選挙戦は事実上の与野党対決となったが、与党が底力を見せて勝利した。

花角氏は、事務所集まった多くの支援者を前に「なんとか勝利を勝ち取ることができた。古里・新潟を元気に暮らしやすい県にしていきたい」と喜びを語った。

同県佐渡市出身で国交省官僚出身の花角氏は、副知事などを務めた経験や幅広い人脈などをアピールし、同県に立地する東京電力柏崎刈羽原発の再稼働について「県民が納得できるか見極める」と慎重姿勢を強調。与党の支援は受けたものの、政党色を抑える「県民党」を掲げ、支持を広げた。

一方、同県柏崎市出身の池田氏は、市職員や市議、県議として地方自治に関わった経験をアピールし、原発再稼働については「現状では同意できない」と主張。野党統一候補として各党から手厚い支援を受けたが、及ばなかった。

野党幹部「政権批判の声示された」...新潟知事選

読売新聞 2018年06月10日 23時32分

立憲民主党の近藤昭一選挙対策委員長は10日夜、事実上の与野党対決となった新潟県知事選で、自民、公明両党が支持した前海上保安庁次長の花角英世氏が初当選を決めたことについて、「今後の新潟県政における原発政策について、県民の意思に沿った行政が進められるよう引き続き注視していきたい」とのコメントを発表した。

かけ

近藤氏は、「森友・加計学園問題にみられる公文書改ざんや虚偽答弁など、国民の不信感を増幅させた安倍政権への批判の声は今回の投票でも示された」とも指摘した。

立民など野党5党は、前新潟県議の池田千賀子氏を野党統一候補として推薦していた。

国民民主党の大島敦選対委員長も談話を発表し、「池田氏への支持の広がりや、新潟における安倍内閣の危うい政治運営に異議を唱える声の広がっていたという証左に他ならない」と強調した。

<新潟知事選>自公支持の花角英世氏が初当選

毎日新聞 6/10(日) 22:41 配信



当選確実の報を受けて万歳をする花角氏＝新潟市中央区で2018年6月10日午後10時38分、堀祐馬撮影

新潟県の米山隆一前知事の辞職に伴う同県知事選は10日投開票され、自民、公明両党が支持する前海上保安庁次長、花角英世氏(60)が、立憲民主、国民民主、共産、自由、社民の野党5党と衆院会派「無所属の会」推薦の元県議、池田千賀子氏(57)ら2氏を破り、初当選した。森友、加計学園問題などで政府・与党に逆風が吹くなか、事実上の与野党対決で、野党共闘が成果を上げられず、与党側が制したことは、今後の政治情勢に影響を与えそうだ。投票率は58.25%(前回53.05%)。

米山氏の女性問題をきっかけにした選挙戦で、前回に続き、県内にある東京電力柏崎刈羽原発の再稼働問題などを争点に、与野党の支援を受けた両氏がしのぎを削った。新潟では2016年の参院選、知事選に続き、17年の衆院選小選挙区でも野党が4勝2敗で勝ち越しており、久しぶりの与党系勝利となる。

同県副知事の経験もある花角氏は「私も原発は不安だ」として、再稼働に慎重だった米山氏の路線継承を表明。今後2～3年かけて県が独自に原発の安全性を検証するまで、再稼働の議論に応じないとし、脱原発を旗印にする池田氏陣営をけん制してみせた。

そのうえで元国土交通官僚としての豊富な行政経験を生かして観光振興や交通インフラ整備などに取り組み、人口減に歯止めをかけると主張してきた。

選挙戦では「県民党」を掲げ、多くの県内市町村長から応援を受けた。一方で森友、加計学園問題など難局が続く安倍政権への批判をかわすため、自公幹部は街頭演説に現れず、政党色を前面に出さない活動を徹底、業界団体を個別にまわるなど「裏方」として組織の引き締めを徹した。

この結果、自公支持層だけでなく、原発再稼働に慎重な有権者や、人口減などに危機感を持つ無党派層にも支持が浸透。池田氏との接戦に競り勝った。

池田氏は選挙戦を「安倍政権への審判」と位置づけ、推薦する野党6党派の代表がそろい踏みして支援を訴えるなど積極的に政権批判を展開。原発へのスタンスでも花角氏との差別化を図ろうと、国内全原発の廃炉を主張し、柏崎刈羽原発についても、再稼働の是非を「県民投票などで決める」と訴えたが、自公の組織戦を前にあと一歩及ばなかった。【堀祐馬、南茂芽育】

◇新潟県知事選確定得票数

当 546,670	花角 英世<1>	無新=[自][公]
509,568	池田千賀子	無新=[立][国]
	[共][由][社]	
45,628	安中 聡	無新

新潟知事選、自公系の花角氏が初当選

日経新聞 2018/6/10 23:56

米山隆一前知事の辞職に伴う新潟県知事選は 10 日投開票され、いずれも無所属新人で、前海上保安庁次長の花角英世氏 (60) が、元新潟県議の池田千賀子氏 (57) = 立民、国民、共産、自由、社民推薦 = ら 2 人を破り、初当選した。花角氏は自民、公明両党の支援を受けたが、東京電力柏崎刈羽原子力発電所再稼働の同意については慎重に判断する姿勢を示している。再稼働問題はなお時間がかかりそうだ。

「ふるさと新潟を元気に暮らしやすい新潟にする」。10 日夜、当選確実の一報を受けた花角氏は新潟市内のホテルで支援者らに県政運営の抱負を語った。

花角氏は国土交通省観光政策課長や新潟県副知事などを歴任した堅実な行政手腕を訴え、幅広い支持を得た。

原発問題については米山前知事が進めてきた東電福島第 1 原発事故の原因など「3つの検証」を、2、3年かけて進めると表明。「検証が終わるまで再稼働の議論は始めることはできない」と説明してきた。

さらに「検証結果がまとまり結論を示せる状態になったなら、辞職して (県民の) 意見を確認することもある」とも述べ、再稼働の判断を争点に出直し知事選を実施し、県民の信を問う可能性も示唆している。

投票率は 58.25%と、前回は約 5 ポイント上回った。

花角氏当選に、東京電力ホールディングス (HD) 関係者は胸をなで下ろしている。池田氏が知事になれば、柏崎刈羽 6、7 号機の再稼働が遠のくとみていたからだ。

ただ、花角氏も選挙戦では再稼働に慎重な姿勢を崩していない。「花角氏が知事になっても事業計画で予定している 2021 年度までの稼働はギリギリ」との見方も社内にはある。花角氏が、前知事時代からの検証作業をどう進めていくのか、固唾をのんで見守ることになりそうだ。

◇

はなずみ・ひでよ = 82 年 (昭 57 年) 東大法卒、運輸省 (現国土交通省) 入省。観光政策課長、官房審議官などを経て、15 年海上保安庁次長。新潟県出身、60 歳。

産経新聞 2018.6.10 23:45 更新

【新潟県知事選】与党系の花角英世氏が勝利、野党共闘候補破る 参院選に弾み

新潟県の米山隆一前知事の辞職に伴う県知事選は 10 日投開票され、無所属新人で元副知事の花角英世氏 (60) = 自民、公明支持 = が、いずれも無所属新人で元県議の池田千賀子氏 (57) = 立民、国民、共産、自由、社民推薦と、元同県五泉市議の安中聡氏 (40) を破り、初当選を決めた。

選挙戦は、与党が支持する花角氏と、立憲民主党など野党 5 党の推薦を受けた池田氏による事実上の一騎打ち。与野党とも来年夏の参院選の前哨戦と位置づけ、野党各党は森友・加計学園問題など安倍晋三政権への批判も交えながら、総力戦で選挙戦を戦った。

花角氏の勝利を受け、与党は終盤国会でカジノを含む統合型リゾート施設 (IR) 実施法案など重要法案の成立に全力を挙げる。9 月の自民党総裁選での安倍首相 (党総裁) の 3 選にも追い風になるとみられる。一方、野党は参院選に向けた野党共闘の戦略の見直しを迫られそうだ。

花角氏は国土交通省で要職を歴任し、副知事も務めた行政手腕を強調。政党色を薄めた「県民党」の姿勢を貫き、地元企業や支援団体など組織票を固めた。

一方、池田氏は野党 5 党の党首らを応援に招き、森友・加計学園問題を持ち出して官僚出身の花角氏を徹底攻撃する戦略を展開。「反原発」を強調したが、及ばなかった。

争点となった東京電力柏崎刈羽原発 (同県柏崎市、刈羽村) の再稼働問題については、花角、池田両氏とも米山前知事が始めた検証作業を継承するとして慎重な姿勢を示していた。

◇

当	花角英世	無新	5 4 6 6 7 0
	池田千賀子	無新	5 0 9 5 6 8
	安中聡	無新	4 5 6 2 8
(開票終了)			

産経新聞 2018.6.11 00:30 更新

【新潟県知事選】与党、新潟での連敗ストップ “地上戦” に徹し “空中戦” 僅差でかわす 花角英世氏「なんとかゴールできた」



当選確実の一報を受け、笑顔の花角英世氏 = 10 日午後、新潟市中央区 (宮崎瑞穂撮影)

10 日投開票の新潟県知事選は、事実上の与野党一騎打ちの戦いを与党候補が制した。新潟県の大型選挙で敗北を重ねてきた与党にとって、大きな意味を持つ一勝となった。

平成 28 年 10 月の前回知事選も事実上、与野党一騎打ちの構図。元長岡市長を擁立した与党は、共産、自由、社民の野党 3 党が推薦した米山隆一前知事の前に屈した。

平成 28 年 7 月の参院選 (改選数 1) でも、野党共闘候補で無所属の元職、森裕子氏 = 民進、共産、社民、生活推薦 = にわずか約 2 千票差で競り負け、返り咲きでの 3 選を許した。

かつて「保守王国」といわれた新潟の地も、近年は野党共闘の効力を実証する地となっていた。

前回知事選では、東京電力柏崎刈羽原発 (同県柏崎市、刈羽村) の再稼働問題が主な争点となり、反原発の姿勢を明確にした米山前知事が勝利した。

今回は与野党候補とも米山前知事が始めた検証作業を継承するとして慎重な姿勢を示し、前回ほど大きな争点にはならなかっただけに、両陣営の戦い方が試された選挙戦だった。

初当選を果たした元副知事で元海上保安庁次長の花角英世氏（60）は与党色を薄め、「県民党」で臨んだ。自民、公明の推薦は受けず、支持にとどめた。大物議員の応援演説はほとんどなく、新潟県入りしても組織固めの“黒子”に徹した。

一方、元県議の池田千賀子氏（57）には最初の選挙サンデーから、野党5党1会派の国対委員長らが応援演説に駆けつけ、森友・加計学園問題を追及。官僚出身の花角氏を「官邸の言いなりになる」と批判した。2日には各党派の党首がそろい踏みした。市民団体の集会やSNS（会員制交流サイト）なども活用した。

いわば、“地上戦”に徹した花角氏が、“空中戦”を仕掛ける池田氏をかわし、逃げ切った選挙戦だったといえる。

「こんなにも大変な選挙とは全く思わなかった。なんとかゴールできた」。当選確定となり、新潟市内のホテルで万歳三唱を終えた花角氏は選挙戦を振り返った。与党も何とか勝利したとはいえ、結果は最後まで分からない僅差だった。来年の統一地方選や参院選では、野党統一候補と与党候補の事実上の一騎打ちが多発する見通しだが、与党にとって楽観視できる結果ではなかった。

新潟県が抱えるのは、原発再稼働問題だけではない。人口減少や地盤沈下する経済、停滞する農業と課題が山積している。“花角丸”は船出するが、前途洋々とまでは言えない状況だ。（池田証志）

産経新聞 2018.6.11 00:02 更新

【新潟県知事選】「目立たないようバックアップしたい」 与党系勝利で自民・二階俊博幹事長

自民党の二階俊博幹事長は10日夜、新潟県知事選で自民、公明両党が支持した新人候補の当選が確定になったことを受け「この勝利を大切に、これからの県政にしっかり邁進（まいしん）していただくと同時に、われわれも、あまり目立たないようにしながら、しっかりバックアップをしたい」と述べた。

その上で「勝ったことにおごることなく、またゆめゆめ油断をするようなことのないようにして、今後の政権（運営）に全力を尽くしてみんなで盛り上げていきたい」と語った。

党本部で記者団に述べた。

産経新聞 2018.6.11 01:01 更新

【新潟県知事選】社民・吉川元幹事長、与党系候補は「巧妙に争点そらした」 「県民党名乗りつつ与党とのパイプ強調」

社民党の吉川元（はじめ）幹事長は10日夜、新潟県知事選で社民党など野党6党派が推薦した新人候補の落選が確定になったことを受けて談話を発表し、初当選を決めた新人で元副知事の花角英世氏（60）＝自民、公明支持＝陣営の戦術を「県民の約6割強が反対する（原発の）再稼働については巧妙に争点をそらし、『県民党』を名乗りつつも政権与党とのパイプを強調」と分析した。

産経新聞 2018.6.10 23:41 更新

【新潟県知事選】自由・小沢一郎代表「脱原発の主張は全く正しい！引き続き粘り強く国民に訴える」

自由党の小沢一郎代表は10日夜、新潟県知事選で自由党など野党6党派が推薦した新人候補の落選が確定になったことを受け「この国の未来を考えた場合、『脱原発』を含めた（候補者の）主張は全く正しいものであり、引き続き粘り強く国民に訴えかけていきたい」との談話を発表した。

「国家権力を乱用・私物化し、この国の民主主義や行政を破壊しながら、なおも暴走を続けている安倍晋三政権と徹底的に闘ってまいりたい」とも訴えた。

産経新聞 2018.6.10 23:25 更新

【新潟県知事選】国民民主・大島敦選対委員長「県民の思い結集できず」



国民民主党の大島敦選対委員長（斎藤良雄撮影）

国民民主党の大島敦選対委員長は10日夜、新潟県知事選で国民民主党など野党6党派が推薦した新人候補の落選が確定になったことを受け「候補の『新潟のことは新潟で決める』という決意に共鳴し全力で支援を行ったが、県民の思いを結集できなかったことは無念でならない」との談話を発表した。

「野党がともに戦った選挙戦での支持の広がり、安倍晋三政権の危うい政治運営に異議を唱える声が広がっていたという証左にほかならない」とも指摘した。

産経新聞 2018.6.10 23:21 更新

【新潟県知事選】立憲民主・近藤昭一副代表「県民の意思に沿った原発政策が進められるよう注視する」

立憲民主党の近藤昭一副代表兼選対委員長は10日夜、新潟県知事選で立憲民主党など野党6党派が推薦した新人候補の落選が確定になったことを受け「新潟県民の判断と選択は選挙結果に示されたが、原発再稼働や原発政策の推進に反対する数多くの県民の意思が表明されており、原発政策について県民の意思に沿った行政が進められるよう引

く続き注視していきたい」との談話を発表した。

その上で「森友、加計学園問題にみられる公文書改竄(かいざん)や虚偽答弁など、国民の不信感を増幅させた安倍晋三政権への批判の声は今回の投票でも示された」と指摘し、「この国の民主主義を土台から侵害し続ける安倍政権と厳しく対峙(たいじ)し、国政の転換を目指す決意だ」と強調した。

産経新聞 2018.6.10 23:04 更新

【新潟県知事選】無所属の会・岡田克也代表「野党結束が政権与党への対抗力となり得ること示した」



「無所属の会」の岡田克也代表(斎藤良雄撮影)

衆院会派「無所属の会」の岡田克也代表は10日夜、新潟県知事選で同会など野党6党派が推薦した新人候補の落選が確実になったことを受け「自公政権に対する国民の不信、怒りの声を多数いただきながら、その声を結果につなげられなかったことは大変残念だ」との談話を発表した。

一方で「政権与党が全力で組織戦を展開するなか、草の根の選挙で戦った候補が接戦となったことは、野党が結束して戦うことで政権与党への大きな対抗力となり得ることを改めて示した」との認識を強調した。「無所属の会が果たすべき役割は小さくない。残された終盤国会においても、野党の連携・協力のもと安倍晋三政権に徹底論戦を挑む」とも訴えた。

新潟県知事選 自民・公明支援の花角氏が初当選

NHK6月11日 5時00分



事実上の与野党対決の構図となった新潟県知事選挙は10日に投票が行われ、自民・公明両党が支援した元海上保安庁次長の花角英世氏が、接戦の末、野党5党が推薦する候補らを破り、初めての当選を果たしました。新潟県知事選挙の結果です。

▼花角英世(無所属・新) 当選、54万6670票

▼池田千賀子(無所属・新) 50万9568票

▼安中聡(無所属・新) 4万5628票

今回の新潟県知事選挙は、自民・公明両党が花角氏を、立

憲民主党など野党5党が池田氏をそれぞれ支援する、事実上、与野党対決の構図で、接戦の末、花角氏が初めての当選を果たしました。

花角氏は新潟県佐渡市出身の60歳。国土交通省の審議官や新潟県の副知事などを経て、海上保安庁の次長を務めました。

選挙戦で、花角氏は、幅広い支持を得ようと、できるだけ政党色を抑え、東京電力柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に慎重な姿勢を示すとともに、地元の経済活性化などに取り組むと訴えました。

また、自民・公明両党は、幹部らが業界団体などを回って支援を呼びかける徹底した組織戦を展開し、花角氏が初めての当選を果たしました。

花角氏は「ふるさと新潟を元気で暮らしやすい県にすることを約束する」と述べました。

また、柏崎刈羽原発の再稼働については「県民の納得がいかないぎり動かすことはできず、県民の考えや理解を第一に考えたい。前の知事が設置した福島原発事故の検証委員会の答えを受けて、リーダーとして何らかの結論を出さなければいけない」と述べました。

一方、池田氏は、原発の再稼働に慎重な姿勢を示し、野党5党の幹部らも街頭で安倍政権を批判して支持を訴えましたが、及びませんでした。

投票率は58.25%で、前回は5.20ポイント上回りました。池田氏「原発ゼロを注視」

池田氏は「当選できなかったことは私の力不足で、本当に申し訳ない。花角氏は原発ゼロを掲げて選挙戦を戦ったので、その実現に向けてしっかり取り組んでほしいし、私も注視していきたい」と述べました。

自民 二階幹事長「今後の政権運営に全力」

自民党の二階幹事長は記者団に対し、「今回の勝利におごることなく、また、ゆめゆめ油断するようなことなく、今後の政権運営に全力を尽くしていきたい。選挙は1回、1回が重要なので、今回勝ったからといって安心や慢心することなく、緊張感を持って次なる戦いに全力を挙げたい」と述べました。

また、二階氏は、森友学園や加計学園をめぐる問題の選挙戦への影響について「一連の問題は本当に邪魔なことだった。関係の人たちには大いに反省してもらいたい」と述べました。

一方、二階氏は、秋の自民党総裁選挙への影響について「今回の結果で、安倍総理大臣にとって追い風となるいい風が吹いてきたと判断して間違いはないと思う」と述べました。

公明 斉藤選対委員長「政権信任ではない」

公明党の斉藤選挙対策委員長は「今回の選挙は、県民の生活や経済、地域の活性化が最大の争点だったと思っているので、直接、国政に影響を与えとか、安倍政権が信任されたというものではないと思っている。ただ、ここまで厳

しい選挙になり、まさに、国政への逆風や非常に厳しい風を感じた」などとコメントしています。

立民 近藤選対委員長「安倍政権批判の声も」

立憲民主党の近藤選挙対策委員長は「原発再稼働や原発政策の推進に反対する数多くの県民の意思が表明されており、県民の意思に沿った行政が進められるよう注視していきたい。森友学園や加計学園の問題に見られる公文書改ざんや虚偽答弁など、国民の不信感を増幅させた安倍政権への批判の声は今回の投票でも示された」というコメントを出しました。

国民 大島選対委員長「争点が見えづらい選挙」

国民民主党の大島選挙対策委員長は記者団に対し、『原発が争点』と言っていたが、主張が極めて似通って明確にならなかったことが、投票にある程度影響したと推察しており、政策の争点が見えづらい選挙だった。一定の政権に対する批判はあると認識しており、政府を監視する立場から、しっかりと疑惑を追及していく」と述べました。

共産 志位委員長「今後につながる財産」

共産党の志位委員長は「当選に及ばなかったものの、大健闘の結果となった。野党5党などがそろって池田氏の推薦を決め、心ひとつにたたかったことは今後につながる大きな財産をつくった。全国でも、市民と野党の共闘をさらに発展させるために全力をあげる決意だ」というコメントを出しました。

自由 小沢代表「惜敗は誠に残念」

自由党の小沢代表は「惜敗は誠に残念だ。しかし、この国の未来を考えた場合、『脱原発』を含めた主張は全く正しいもので、引き続き、粘り強く国民に訴えていきたい。また、国家権力を乱用、私物化し、この国の民主主義や行政を破壊しながら暴走を続けている安倍政権と徹底的に闘っていききたい」という談話を発表しました。

社民 吉川幹事長「野党共闘を推進」

社民党の吉川幹事長は「相手候補は、原発の再稼働について、巧妙に争点をそらし、政権・与党とのパイプを強調して水面下で総力戦を展開した。今後も『脱原発社会』の実現に全力をあげ、安倍政権の早期退陣を強く求めるとともに、来年の参議院選挙に向けて、野党共闘態勢の推進に取り組む」という談話を発表しました。

新潟で勝利 政府与党側“政権運営に自信”

NNN2018年6月11日 01:42

新潟県知事選挙で、自民党と公明党が支持した花角英世氏が初当選したことを受け、政府与党側は今後の政権運営に自信をのぞかせている。政権幹部も「この勝利は政権にとってもものすごく大きい」「9月の自民党総裁選も安倍総理で決まりだ」と安堵の声。

全文を読む

新潟県知事選挙で、自民党と公明党が支持した花角英世氏

が初当選したことを受け、政府与党側は今後の政権運営に自信をのぞかせている。

自民党・二階幹事長「きわどい差ではありますが、勝利をおさめることができました。今後の政権に全力を尽くして盛り上げていきたい」

森友・加計学園の問題など野党側が政府与党への批判を全面展開する中での勝利について、与党幹部は「公明党の組織選挙が大きかった」と分析している。

また、来年に参議院選挙を控え、負ければ「選挙の顔」としての安倍首相に疑問符がついただけに、政権幹部も「この勝利は政権にとってもものすごく大きい」「9月の自民党総裁選も安倍総理で決まりだ」と安堵の声をあげている。

一方、野党側は、参院選の前哨戦と位置づけ、野党共闘を全面に押し出した選挙戦を展開したが、国民民主党幹部が「反原発一本では勝てない」「野党がバラバラであることの限界が見えた」と述べるなど、戦略の練り直しが迫られる結果となった。

新潟県知事選 自公支持の花角氏が初当選

NNN2018年6月11日 01:07

前の知事の辞職に伴う新潟県知事選挙が行われ、自民党と公明党が支持した元海上保安庁次長の花角英世氏（60）が初当選した。

全文を読む

前の知事の辞職に伴う新潟県知事選挙が行われ、自民党と公明党が支持した元海上保安庁次長の花角英世氏（60）が初当選した。

新潟県知事選挙は、自民党と公明党が支持した元海上保安庁次長の花角英世氏が54万票以上を獲得し、野党5党が推薦した池田千賀子氏を破って、初当選を果たした。

花角英世氏「ふるさと新潟を、元気な暮らしやすい新潟県にしていくことを、あらためて皆さんにお約束をしまして、感謝の言葉にさせていただきます」

花角氏は佐渡市出身の60歳。東大卒業後、旧運輸省に入省し、2013年から2015年にかけて新潟県の副知事も務めた。

選挙戦では、柏崎刈羽原発の再稼働問題が争点となったが、再稼働には慎重な姿勢を示し、前の知事が掲げた福島原発事故の検証など“3つの検証”を継承することなどを訴えた。

選挙は事実上の与野党対決となり、池田氏のもとには野党の党首などが応援に入ったが、届かなかった。

新潟県知事選、花角氏が競り勝つ 池田氏と3万7千票差

新潟日報 2018/06/11 00:26

米山隆一前知事の辞職に伴う第21回知事選は10日、投開票され、無所属新人で自民、公明両党が支持する元副知事で前海上保安庁次長の花角英世氏（60）が、無所属

新人で立憲民主、国民民主、共産など野党5党が推薦する前県議の池田千賀子氏（57）に、約3万7千票差で競り勝ち、初当選した。

与野党対決となった今知事選。花角氏は自民、公明両党のほか、大半の市町村長や各種業界団体などから幅広い支持を受け、分厚い組織戦を展開。保守層を徹底して固めた上で、無党派層や東京電力柏崎刈羽原発の再稼働に批判的な層にも一定程度浸透した。

花角氏は原発について「県民の納得が得られない限り、再稼働はしない」と主張。経済活性化や交通網の強化、観光振興などをアピールした。

野党系知事の辞職で県政が揺らぐ中、官僚として培った行政手腕や国とのパイプに期待が集まった格好。花角氏は10日夜、新潟市中央区のホテルで支持者らと万歳し、「ふるさと新潟を元気に、暮らしやすい新潟にすることを、あらためてみなさんにお約束したい」と決意を述べた。

池田氏は立民、国民、共産、自由、社民の野党5党と連合新潟が推薦し、知事選では初となる「オール野党共闘態勢」を敷いた。原発再稼働への否定的な姿勢を強調、安倍政権を批判して無党派層の取り込みを図ったが、及ばなかった。

無所属新人で前五泉市議の安中聡氏（40）は浸透しなかった。

投票率は58・25%で、前回2016年よりも5・20ポイント上昇した。

◇県知事選開票結果（選管最終）

当546、670 花角 英世60 前海上保安庁次長 無新（1）

509、568 池田千賀子57 前県議 無新
（立民、国民、共産、自由、社民推薦）

45、628 安中 聡40 前五泉市議 無新
当日有権者数 190万9379▽投票者数 111万2142▽投票率 58・25%▽無効 1万246▽持ち帰り 23▽不在者投票不受理 7

石破氏、首相對応を批判 不祥事「逃げては駄目」

共同通信 2018/6/10 11:58

自民党の石破茂元幹事長は10日、徳島市で街頭演説し、森友、加計学園問題への関与を否定する安倍晋三首相を念頭に「あったことをなかったかのように言っては駄目だ。逃げてばかりいては駄目だ」と批判した。

「ごめんなさい（と言うべき時）ならごめんなさい（と言う）。そういうことをきちんとやらないと、この国は本当におかしくなる」と強調した。

首相の責任を問う声が高まらない自民党内の現状を踏まえ「間違っているなら間違っていると、きちんと認める自民党でなければ、国民の支持を得ることはできない」と訴えた。

森友 加計 石破氏「自民党としても真相解明を」

NHK2018年6月10日 11時42分



森友学園や加計学園などの問題について、自民党の石破元幹事長は徳島市内で街頭演説し、早期の収束を図るため、党としても真相解明に取り組むべきだという考えを示しました。

この中で石破元幹事長は、森友学園や加計学園などの問題をめぐる国会審議について「やれ『森友がどうした』とか『加計がどうした』とか、『言った』とか『言わない』とか、そんなことにずっと政治のエネルギーを使ってよいのか。『あったならあった』『なかったならなかった』『ごめんなさいならごめんなさい』と、きちんとやらないとこの国は本当におかしくなる」と指摘しました。

そのうえで「一生懸命、安倍内閣を支えるのは自民党員としての責任だが、『正しいことは正しい』『間違っていることは間違っている』と、きちんと認める自民党でなければ国民の支持は得られない」と述べ、早期の収束を図るため、党としても真相解明に取り組むべきだという考えを示しました。

枝野氏「会期延長に反対」 カジノ法案巡り

共同通信 2018/6/10 15:30



立憲民主党の枝野幸男代表

立憲民主党の枝野幸男代表は10日、宇都宮市で記者団に、20日が会期末の今国会の延長に反対の意向を示した。安倍政権はカジノを含む統合型リゾート施設（IR）整備法案の確実な成立を期し、会期を延長する方針。これに対し、枝野氏は「政府、与党は会期内で法案をしっかりと議論し成立させる責任がある。20日で終わりにすべきだ」と語った。

参院選の「1票の格差」是正のため、定数を6増やす自

民党の公選法改正案にも触れ「会期末が近い今ごろ、選挙制度の話を出してくるのは論外だし、議論の俎上に載せるのも論外だ。(それを理由に) 会期を延長すべきでない」と述べた。

首相、難航の宣言取りまとめ主導 G7 サミット、活躍を自画自賛？

共同通信 2018/6/10 17:19



G7 サミットでトランプ米大統領(右端)らと話し合う安倍首相(手前左から2人目)。左端はドイツのメルケル首相＝9日、カナダ・シャルルボワ(首相官邸のフェイスブックから)

【ケベックシティ共同】カナダで開かれた先進7カ国首脳会議(G7 サミット)で、難航する首脳宣言の取りまとめを巡り、安倍晋三首相が各国首脳の調整役を果たし「膝詰め」(首相)議論を主導した。首相は、トランプ米大統領らと話し合う様子を撮影した写真を自身の写真共有アプリなどに投稿。活躍を「自画自賛」した形だ。

日本政府関係者によると、議論の対象となったのは貿易摩擦問題の表現など。

ドイツのメルケル首相とトランプ米大統領の間に立った安倍首相が、貿易分野で「ルールに基づく貿易システムを発展させていく」との表現を提案すると、議論が収束に向かい合意につながった。

G7、貿易で首脳宣言発表へ 米輸入制限、批判噴出も

共同通信 2018/6/10 00:51



ジェンダー平等アドバイザリー評議会との朝食会に臨むトランプ米大統領(右端)ら＝9日、カナダ・シャルルボワ(代表撮影・共同)

【シャルルボワ共同】カナダ東部シャルルボワで開かれた先進7カ国(G7)首脳会議(サミット)は9日午前(日

本時間9日夜)、2日目の日程に入った。初日の経済討議で米輸入制限への批判が噴出した貿易を巡って首脳宣言がまとまる方向となった。政治討議は北朝鮮に非核化を求める方針で一致した。9日は気候変動などを議論し閉幕する。

西村康稔官房副長官は9日朝の首脳による協議を経て「貿易に関する首脳宣言がまとまる方向だ」と述べた。

経済討議では米国が3月に決定した鉄鋼やアルミニウムの関税引き上げによる、輸入制限に批判が集中した。

G7 サミット閉幕、関税下げ宣言 トランプ氏「承認せず」

共同通信 2018/6/10 12:17/6/10 12:18updated



G7 サミットの拡大会合で、記念写真に納まる安倍首相(後列中央)と各国首脳ら＝9日、カナダ・シャルルボワ(代表撮影・共同)

【シャルルボワ共同】先進7カ国(G7)首脳会議(サミット)は9日午後(日本時間10日未明)、カナダ東部シャルルボワでの2日目の討議を終え、首脳宣言を採択して閉幕した。宣言は議長国カナダが発表し、自由で公正な貿易の実現に向け「関税の引き下げに努力する」と指摘した。しかし、トランプ米大統領は閉幕後、カナダのトルドー首相の発言に反発し、首脳宣言を承認しないように指示したとツイッターで表明した。

米国が発動した鉄鋼などの輸入制限に反対する日本など6カ国は、トランプ氏の主張を反映したが、G7の崩壊の危機は脱せなかった。



G7 サミットで、トランプ米大統領(右端)に向かい、机に手を置いて討議するドイツのメルケル首相(中央左)。メルケル氏の横で腕組みする安倍首相＝9日、カナダ・ケベック州(ドイツ政府提供、AP＝共同)

G7 首脳宣言を採択 米と6カ国、貿易で溝埋まらず

毎日新聞 2018年6月10日 12時28分(最終更新 6月10

日 12時38分)



G7サミットで集合写真に応じる各国首脳＝2018年6月9日、AP

【ケベック（カナダ）土屋溪】主要7カ国首脳会議（G7サミット）は9日（日本時間10日）、最大の焦点だった通商問題について「保護主義と闘い続ける」と明記した首脳宣言を採択し、閉幕した。ただ、欧州連合（EU）やカナダに輸入制限措置を発動した米国と、それに反発する各国の溝は埋まらなかった。

首脳宣言は貿易について昨年と同様に「自由で公正で互恵的な貿易が成長と雇用創出の原動力」と明記。保護主義に対抗することを再確認した。世界貿易機関（WTO）の改善を進め、関税・非関税障壁の削減に務めることを新たに盛り込んだ。

安全保障分野では北朝鮮に対し、「すべての大量破壊兵器と弾道ミサイルの完全かつ検証可能で不可逆的な廃棄を求め続ける」とした。

一方、議長国カナダのトルドー首相は閉幕の記者会見で、米国が安全保障を理由に発動した鉄鋼・アルミニウム製品の輸入制限措置について「（戦争をともに戦ったカナダに対して）侮辱的だ。米大統領にカナダは振り回されない」などと批判した。

これに対し、トランプ米大統領はツイッターで「不誠実で意気地がない」と非難。「首脳宣言を承認しないように米代表团に指示した」と投稿した。貿易を巡る米国と各国の隔たりが依然として大きいことが浮き彫りとなった。

G7サミット 日本、拉致で支持獲得 討議を主導

毎日新聞 2018年6月10日 01時30分(最終更新 6月10日 02時53分)

【ケベック（カナダ）小山由宇】安倍晋三首相は8日夜（日本時間9日朝）に行われた主要7カ国首脳会議（G7サミット）の政治・外交分野で北朝鮮問題を巡る討議を主導した。12日にシンガポールで開かれる米朝首脳会談を控え、核・ミサイル問題だけでなく、拉致問題も含めて解決に向けた国際社会の結束を示したい首相。各首脳から協力を取り付け、北朝鮮に強いメッセージを送ることに成功した形だ。

「米朝会談直前の開催となったサミットでは、G7首脳が一致団結して北朝鮮に力強いメッセージを出すことが重要だ」

サミット開幕直前の8日朝（同8日深夜）、首相は議長国カナダのトルドー首相との会談で強調した。北朝鮮問題に焦点を当て、サミットでの議論の流れを作る狙いがにじんだ。

想定通り、G7の政治・外交分野の討議は、計1時間40分のうち半分が北朝鮮問題に充てられた。同行筋によると、冒頭でトルドー首相の指名を受けた安倍首相が議論をリード。「制裁解除のタイミングを見誤ってはならない。国連安全保障理事会の制裁決議の完全な履行を徹底することが重要だ」などと主張した。米朝会談で拉致問題を提起すると確約したトランプ米大統領に対し、G7が一致して「交渉を後押しする」ことでも合意した。

首相は討議に前後して、イタリア、英国、ドイツの各首相とも相次いで会談。いずれも北朝鮮の核・ミサイル、拉致問題の解決への協力を要請し、快諾を得た。イタリアのコンテ首相からは拉致問題について「残念な事件で日本の方々の気持ちを理解している」との言葉を引き出した。同行筋は「北朝鮮に対する対応は完全にG7で一致した」と自賛する。

昨年のイタリア・タオルミーナでのサミットでは、北朝鮮の脅威が「新たな段階に達した」との認識を共有した。国際社会に協調を促し、対話を重視する中国とロシアが、北朝鮮への原油・石油精製品輸出を制限する国連安全保障理事会の制裁決議に賛成せざるを得ない流れを作った。日本政府は米朝会談の成功を前提に、日朝首脳会談の可否を探る。首相は国際的な世論を喚起し、北朝鮮に拉致問題解決を突き付けたい考えだ。

ただ、首相が思い描く道筋は、「トランプ氏依存」の危うさもはらむ。自民党の伊吹文明元衆院議長は7日、自身が所属する二階派の会合で「トランプ氏が米朝会談で、米中間選挙のために日本にとって不利な結論を出したら、内閣支持率が難しいことになる。首相にはよほど緊張感を持って対応してほしい」と語った。

産経新聞 2018.6.10 10:55 更新

【首相記者会見詳報（上）】米朝会談「トランプ米大統領をG7として支持し、交渉姿勢を支えると完全に一致」

G7サミットが閉幕し、記者会見する安倍首相＝9日、カナダ東部ケベックシティー（代表撮影・共同）

安倍晋三首相は9日（日本時間10日）、先進7カ国（G7）首脳会議（サミット）閉幕後、カナダ東部ケベックシティーで記者会見した。12日にシンガポールで行われる米朝首脳会談について「トランプ米大統領をG7として支持し、交渉姿勢を支えると完全に一致した」と述べた。首相の記者会見の詳報は次の通り。

◇

「本年のG7サミットが閉幕いたしました。まず冒頭、カナダ国民の皆様への心温まる歓待に対して心から感謝申し

上げたいと思います。そして議長を務めたトルドー首相のリーダーシップにも敬意を表します」

「近年、世界経済はますます国境がなくなり、相互依存を深めています。こうした急速な変化に対する不安や不満がときに保護主義への誘惑を生み出し、国と国との間で鋭い利害対立を生じさせる。これはG 7の内部においても例外ではありません」

「本年のサミットでは、貿易をめぐる、激しい意見のやりとりがありました。貿易制限措置の応酬は、どの国の利益ともならない。いかなる措置もWTO（世界貿易機関）のルールに従って行われるべきであります。世界の貿易や投資を拡大するためには、自由で公正なルールを打ち立て、それを進化させていくことが必要です」

「人の技術やノウハウを盗むような行為が横行すれば、持続的な経済発展など望むべくもありません。こうした大きな価値観と世界が歩むべき方向性を共有しながら、これまで、世界経済の成長を力強く牽引してきた。それが、私たちG 7であります。だからこそ安心して、互いに本音をぶつけ合うことができる。G 7サミットはこれまでもそういう場でありました」

「今回のサミットは、とりわけ見解が異なる局面が多く難航しましたが、そうした中であっても、補助金などによる過剰生産の問題を見過ごすことはできない。市場をゆがめる不公正な貿易投資慣行に対して、G 7として断固対抗していくとの認識で一致いたしました。そして、自由で公正なルールに基づく貿易システムを発展させていくため、努力していくことをG 7として確認しました」

「会場の外で、夜にそして朝に、首脳だけで集まり、まさにひざを詰めて、まさにひざ詰めで直接本音をぶつけ合い、こうした合意に至ることができた。首脳宣言として発出できることは大きな意義があると考えています。TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）、欧州とのEPA（自由貿易協定）、日本は引き続き、自由貿易の旗手として自由で公正なルールに基づくマーケットを世界へと広げていく。そのリーダーシップを力強く発揮していく決意であります」

「同時に、経済成長で得られた果実を教育や福祉に分配することを通じて、しっかりと国民全体に広く、均霑（きんてん）していく。さらには環境との調和を図るために投資する。そのことによって次なる経済成長が可能となります。持続的な成長を実現するため、そうした好循環を作り上げていく取り組みが必要です。私からそのことを訴え、他のリーダーたちから賛同を得ることができました」

「現在、世界経済は全体として、堅調に推移しているものの、一部の新興国においては、通貨下落など経済に変調もみられます。市場の不安を払拭するためにも、私たちG 7が必要に応じて行動するとの意識を持って市場動向を注視していく。G 7が協調して世界経済の安定に役割を果たしていくべきであります」

「こうした議論の中で、北朝鮮問題では全員の意見が一致しました。さまざまな地政学的リスクへの対応もG 7の重要な役割です。特に、北東アジアの平和と安定は世界経済の安定的な成長にとって、極めて重要な役割を果たすものであります。この問題についてはサミットだけでなく、イギリスのメイ首相やドイツのメルケル首相との個別の首脳会談においても、私から丁寧に説明を行いました。そして、国際社会が一致して、これまでと何ら変わることなく、安保理決議の完全な履行を求めていく。そのことをG 7の総意として、改めて合意しました」

「北朝鮮には豊富な資源があり、勤勉な労働力があります。北朝鮮が正しい道を歩むのであれば、明るい未来を描くことも可能です。核・ミサイル問題そして何よりも重要な拉致問題が解決すれば、わが国も日朝平壤宣言に基づき、不幸な過去を清算して、国交を正常化し経済協力を行う用意があります。G 7のリーダーたちと緊密に連携しながら、北東アジアに真の平和が実現するよう、日本も力を尽くしていく決意を表明しました」

「直前に迫った米朝首脳会談の成功を強く期待いたします。歴史的な会談に臨むトランプ大統領をG 7として支持し、その交渉姿勢を支えていく。その点で私たちG 7は完全に一致することができました」

「自由、民主主義、人権、法の支配。私たちはこうした基本的な価値で結ばれた国々であります。そして私たちは、世界の平和と繁栄に大きな役割を果たしていく。その強い責任感を共有しています。経済、安全保障、世界が直面する課題にしっかりと処方箋を示していく。そのためにはロシアの建設的な関与を求めていくことも必要です。そのためには、私たちもロシアも、双方がその環境整備に向けた努力をしていかなければならない。この点についても今回、首脳たちと議論いたしました。さまざまな意見の相違はあろうとも、私たちが率直な議論を通じて、一致結束し、世界の平和と繁栄をリードしていく。その変わらぬ決意を初夏の美しいケベック、シャルルボアの地で今回、改めて世界に示すことができたと考えています。私からは以上であります」

【質疑応答】

――今回のG 7サミットでは、米国が課した鉄鋼などの輸入制限めぐり、米国と米国以外の対立がみられたが、最終的には宣言をまとめることができた。首相はどう橋渡しをしたのか。宣言はまとめたが、トランプ大統領が輸入制限措置を撤回しないなど、現状は変わっていない。G 7サミットの意義を改めて。

「先ほど申し上げましたが、経済のグローバル化が急速に進む中において、変化に対する不安や不満が、ときに保護主義への誘惑を生み出し、国と国との間で激しい対立を生じさせる。これはG 7においてもですね、例外ではありません。しかし、時計の針を逆戻りさせてはならない。G 7

が貿易制限措置の応酬をすれば、どの国の利益とならないだけではなくて、市場をゆがめる不公正な貿易・投資慣行を続ける国々を利用するだけである。首脳間では、さまざまな意見がありました。ときには相当激しいやりとりもありましたし、今までの、私も今回のG 7、7回目の出席ではありますが、歓迎行事等々、食事も終わってですね、かなり遅い時間になって、首脳同士が再び集まってですね、首脳だけでひざ詰めで、議論をする、交渉し、そして次の日の朝もですね、朝から首脳同士が議論するという場面はなかったと、今回のようなことはなかったと記憶をしておりますが」

「私はですね、そのときにも、さまざまな議論があったんですが、国際社会が作り上げてきた自由で公正なルールをしっかりと堅持をし、そして課題があるならばむしろ、こうしたルールを進化させることで、解決すべきであることを強調し、全ての国から理解を得ることができました。G 7サミットは個別の紛争や利害調整を行う場ではありませんが、他方で、これまでG 7がリードしてきた自由で公正なルールに基づく貿易システムを発展させる努力をしていくことで、今回、G 7が合意に至った、合意することができた意義は大変、私は大きいと思います」

「G 7というのはまさに、首脳同士が集まって率直に意見交換をする場所であります。相手がどういう考え方を持っていて主張しているのかということを理解しながら、同時にですね、私たちがお互いに世界経済をリードしていかなければいけない。今申し上げたような、自由で公正なルールに基づく貿易システムを発展させるという責任感を共有している。これをもう一度確認し合うこともできた。それがまさに、G 7の役割であろう、そして意義でもあらうと思います。世界経済の持続的な成長をですね、今後ともにリードするG 7の意志を示すことができたと思っています」

産経新聞 2018.6.10 10:57 更新

【首相記者会見詳報（下）】

日朝首脳会談に意欲。「問題解決に繋がる形で実現されればよい」



G 7サミットが閉幕し、記者会見する安倍首相＝9日、カナダ東部ケベックシティ（代表撮影・共同）

――米朝首脳会談について。安倍晋三首相はトランプ大統領との会談でどんなアドバイスをしたのか。米朝首脳会談が成功する可能性は

「私はこのシャルルボワ、カナダを訪問する前にワシントンを訪ねまして、トランプ大統領と首脳会談を行いました。その際、ほとんどの時間を費やして、北朝鮮の問題についてお話をいたしました。北朝鮮に対して、北朝鮮による全ての大量破壊兵器、あらゆる射程の弾道ミサイルおよび関連施設のCVID（完全かつ検証可能で不可逆的な廃棄）の実現が必要であること。そして、そのために北朝鮮に対し、関連安保理決議の完全な履行を求め、具体的な行動を引き出していくことにおいてですね、完全に一致をしたと、こう思っております」

「また、日本にとって極めて重要な問題である拉致問題について、41年前、新潟の美しい港町から13歳の少女が拉致をされた。彼女だけではなくて全ての拉致被害者の即時帰国を求めているかなければいけないわけですが、この問題の解決についてもですね、トランプ大統領は協力をしていくこと、協力していくということについて約束をしていただきましたし、米朝首脳会談で提起していくということについても力強く約束をしていただきました」

「こうした歴史的な首脳会談に向けた準備においても、日米でしっかりと、ともに準備を行い、そして基本方針については、私はしっかりとすり合わせることができたと思います。もちろん北朝鮮をめぐる問題、なかなか解決できなかった問題でありますから、そう簡単なことではないと思いますが、歴史的な米朝首脳会談が成功し、核・ミサイル問題、そして拉致問題が前進することを期待しておりますし、日本としても全面的に協力をしていきたい、支持をしていきたいと考えています」

――来週に米朝首脳会談が行われるが、今回G 7として北朝鮮の非核化と拉致被害者の早期帰国、解決について完全な合意に至った。米朝首脳会談が拉致被害者の帰国に道を開くことになるという感触はどれほどあるのか。また日米首脳会談の後の共同記者会見で日朝首脳会談について意欲を示されたと私たちは受け止めたが、今後具体的な日朝協議の道筋をどのように描いているのか

「トランプ大統領との会談においては、この拉致問題についても相当時間をかけてお話をさせていただきました。拉致問題の経緯、あるいは被害者のご家族の皆様がいつか帰国を切望しているか。もうあんまり時間も残されていないということも含めてお話をさせていただいたわけであります」

「そして即時解決に向けて理解と協力を、このG 7におきましてもですね、G 7におきましても、この問題について理解と協力を呼びかけ、多くの国々から全ての国々から理解と支持を得ることができたわけですが、トランプ大統領からもですね、共同記者会見においても、この問題は必ず提起するという力強い発言がありました」

「そしてですね、この問題についてはですね、北朝鮮問題への対応については、まさに米国をはじめとするG 7各

国や国際社会と引き続き連携をしていきますが、拉致問題については最終的にわが国自身が北朝鮮と直接協議し、そして解決をしていく決意であります。日朝首脳会談については、これを行う以上は北朝鮮の核、ミサイル、そして何よりも重要な拉致問題の解決につながるものが極めて重要であります。問題解決に繋がる形で、首脳会談が実現されればよいと考えています。この会談においてですね、まさにトランプ大統領からこの拉致問題が提起をされ、そして最終的には、今申し上げましたようにですね、最終的には日本と北朝鮮との間で直接協議をし解決する、そういう決意であります。それに向かってですね、この米朝首脳会談が大きな成果をあげることを強く期待をしております」

――日中関係や貿易の動きについてどうみているか

「まず、中国について言えばですね、中国について言えば、日中関係については近年、困難な局面が続いてまいりましたが、先月、李克強首相が中国の国民総理として8年ぶりに、日本を正式訪問をいたしました。日中関係の抜本的な改善に向け、重要な一步を踏み出すことができたと思います。日中両国はアジア、そして世界の平和と繁栄に欠くことのできない大きな責任を共有しています。両国がその責任をしっかりと果たしていくことへのアジア諸国や国際社会の期待を強く感じています。私の年内の訪中、そして、その後の習近平国家主席の国家主席としての初訪日。首脳レベルの往来を積み重ね、あらゆる分野の交流、協力を推し進め、日中関係を新たな段階に押し上げていきたいと思っています」

「そして自由貿易の問題については、日本は国際ルールに基づく自由で開かれた、公正な経済秩序の構築を一貫して重視しています。いかなる貿易上の措置もWTO（世界貿易機関）協定と整合的であるべきであり、対抗措置の応酬は誰の利益にもならないと考えています。同時に、知的財産の保護をはじめ、国際ルールの順守も重要な課題であり、わが国としては以上の立場に基づいて、自由貿易体制の維持と推進に引き続き、積極的な役割を果たしていきたいと思います」

「日中関係とですね、また日米関係を、これは単純に比較するわけにはいかないわけでありまして、ご承知のように、日米は同盟国であり、強い絆で結ばれているわけがあります。そして先ほど申しましたように、自由で公正なルールを守って自由貿易体制を維持をしていく、発展させていくというのはまさにG7の大きな、これは目標でありまして、米国もですね、G7の一員としてこの価値観を、われわれと共有しているわけでございます。その観点からもですね、現在、米国が取っている姿勢等々についてもですね、率直に意見交換をしていきたいと思っておりますし、来月から自由で公正、そして総合的なこの貿易の協議「FFR」がスタートするわけでありまして、そこでしっかりと米国ともお互いに相互に利益となるような建設的な対話を行っ

ていきたいと考えています」